



医学博士
馬場 金太郎



馬場博士が長年にわたって採取・研究された資料を展示
胎内昆虫の家（特別展示室）

馬場金太郎博士は明治45（1912）年～平成5（1993）年、千葉県生まれ。幼少から黒川に育ち、新発田中学から旧制新潟高校に進み、新潟医科大学を卒業、養父の馬場医院を継ぎます。戦時中は軍医として戦地におもむき、戦後は黒川病院と村上精神病院をつくり、院長、理事長として医療に尽くしました。

世界的昆虫学者として昆虫の研究に多大な業績を残し、日本昆虫学会評議員、新潟県自然環境保全審議会会長、新潟大学講師としても活躍しました。

特に昆虫採集にかけて馬場博士は天才といわれ、膨大な標本を残しました。

数多くの著書、論文も残し、代表作に『虫きち』『ウマシカの妄録』『飯豊山塊・胎内溪谷の生物』『昆虫採集学』などがあります。またアキアカネの渡りについて研究し、中学校の国語の教科書にも紹介をしています。

「男子三日会わずんば刮目してみるべし。一年前に会った時も、十年前に会った時も、ちっとも変らんという人間を僕は余り尊敬する気にはならない。いつも勉強している、いつも新しくなっている人間を尊敬する。」など、ずばり物を言う独特の語り口で多くの人を魅了しました。

馬場博士が昭和天皇にご進講された際の標本、長年研究された昆虫標本や図書が胎内昆虫の家に寄贈され、昆虫の森には銅像が建立されています。



馬場金太郎博士銅像
（昆虫の森）